



# 谷原小だより 9月号

平成 25 年 9 月 2 日  
練馬区立谷原小学校  
校長 眞瀬 敦子

## 備える

校長 眞瀬 敦子

高くなった空や雲の形に秋を感じるようになったとはいえ、まだまだ続きそうな猛暑の中、学校には元気な子供たちの声が帰ってきました。

この夏は学校便りで特に触れなかったにもかかわらず、去年以上に沢山のお便りをいただきました。ありがとうございました。その嬉しさを伝えたくて、私もできるだけ早くお返事を書いたつもりですが、それにまた返事が来たりして、嬉しさ倍増でした。

さて、今年の夏も様々なことがありましたが、天候の不安定さは大変気になるところでした。西日本や東北では大豪雨なのに関東はカラカラ天気、強烈な日差しには命の危険さえ感じるほど。水温が上がり海流さえも変化しているとか、桜島の爆発的な噴火はあの東日本大震災で地下プレートの構造が変わったせいだと言われると、富士山は大丈夫かしらと本気で心配になります。

そんな中で昨日は関東大震災から 90 年ということで、各地で大々的な防災訓練が開かれましたが、ある学者が「想像力を働かせて対策を練って備えなさい」と言っているのが印象に残りました。

「この場所で災害に遭ったらどうなるか」とか、「時間や日にちが経っていったときに必要になってくるものは何か」、といったことを考えながら備えなさいというのです。

(ところで練馬区でも 8 日に、10 カ所で総合防災訓練をし、谷原の近所では北原小が会場になっていることは区報でご存じかと思いますが、皆さんは谷原小も避難拠点になっていることをご存じですか？本校は「情報拠点校」なのですが、役所と学校と地域との三者で運営すべき「避難拠点運営連絡会」は現在、肝心の地域の組織がうまく機能していない為、事実上の活動ができない状況にあるのです。ご自分の属していらっしゃる町会でも自治会でも、防災がどのようになっているか、ちょっと気をつけてみてください。それが災害への「備え」の大切な一歩だと思います。)

話は戻って、「想像力を働かせて備える」というのは色々なところに応用できそうです。

この夏の素晴らしい方の思い出の一つに、イチロー選手の日米通算 4 千安打達成が挙げられますが、彼は 39 歳という、スポーツ選手としては衰えゆく肉体と自分の技術とを徹底的に見つめ考え抜いて、対応する練習法を編み出し実行してきました。まさに、あらゆる状況を想定し、それに備えて自分の肉体を磨き上げてきた成果がこの 4 千安打達成なのです。

話は変わりますが、私はこの夏府中の森公園という大きな森を歩いていて、ドングリがもう生っているのに気付きました。その目で見回してみると、喬木も灌木も古木も若木も、生い茂る葉っぱの陰に、あるいは上に、あるいはぶら下がるようにして、みんな様々な形の実を付けているではありませんか。どれもまだ青くよほど注意しないと葉に紛れてしまいますが、彼らは確実に真夏の日を葉っぱいっぱい受け止め、それを実に変え、繁殖の秋に備えていたのです。木だってちゃんと考え、移りゆく季節を想像しているに違いない！これも立派な「備え」だと、感心してしまいました。

夏の間にお日様の光を浴びて沢山遊び、様々な体験をした子供たちも、きっとあの木々のように、秋に向かって、一人一人違った素敵な実を実らせていくことでしょう。